

なし（殺菌剤・殺虫剤）
指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名(商品名)	赤星病	黒斑病	黒星病	輪紋病	うどんこ病	胴枯病	炭疽病(葉炭)	白紋羽病	類シシクイムシ	ハダニ類	ナシホソガ	類カイガラムシ	アブラムシ類	カメムシ類	ハマキムシ類	ナシグンバイ	ナシチビガ	ニセナシサビタニ
ICボルドー48Q			●															
アーデントフロアブル									△	△			△	●				
アクサフロアブル	●	●	●	△	●													
アクタラ顆粒水溶剤									●			△	●	●				
アグロスリン水和剤									△				●	●	△		△	
アディオフロアブル									△				△	●				
アドマイヤーフロアブル													●					
アブロードフロアブル												●						
アミスター10フロアブル		△	●	●	△		●											
アリエッティC水和剤		●		△														
アントラコール顆粒水和剤	△	●	●															
アンビルフロアブル	●		●	△	△													
インダーフロアブル	△		●	△	△													
ウララDF													●					
エクシレルSE									●				△		●			
エルサン水和剤40									△			△	●	△	△			
オーソサイド水和剤80	△		●	●			△											
オキシラン水和剤		●	●	●			△											
オリオン水和剤40									△			△	●		△			
オンリーワンフロアブル	△	△	●	△	△													
カナメフロアブル	●	●	●	△														
カネマイトフロアブル										●								●
キノンドーフロアブル		●	●	△														
クムラス																		●
コテツフロアブル										△								●
コルト顆粒水和剤												●	△					
コロマイト水和剤										●								
コロマイト乳剤										●								△
サイアノックス水和剤									●			△	●		△			
サムコルフロアブル10									●						●			
サンマイト水和剤										△			△					●
シンクイコン-L									●									
スカウトフロアブル									●				△	●			△	
スクレアフロアブル			●	△	△													
スコア顆粒水和剤	●	△	●	△														
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤									●			△	●	●				
ストロビードライフロアブル		△	●	●	△		●											
スピンドロン乳剤										●								
スプレーオイル										△		●						
スミチオン水和剤40									●			●	●	●	●	●	●	
スミチオン乳剤									△		△	△	△	△	●	△	△	
石灰硫黄合剤			●							△		△			●			
セルカディスDフロアブル	●	●	●				●											
ダイアジノン水和剤34									●			●	△		●	●		
ダイパワー水和剤		●	●	●	△		●											
ダニオーテフロアブル										●								
ダニコングフロアブル										●								
ダニゲッターフロアブル										●								△
ダニトロンフロアブル										△								●
ダントツ水溶剤									●			●	●	●				
テオノックフロアブル	●	△	●				●											
ディアナWDG									●						●			

(1) 赤星病 *Gymnosporangium asiaticum*

(生態と防除のねらい)

- ① 病原菌は、ナシとビャクシン類との間で異種寄生生活を行う。ビャクシン類の組織内で菌糸体で越冬し、早春にビャクシン類に冬孢子堆を形成する。冬孢子堆は、降雨時に寒天状に膨らみ、発芽した冬孢子は小生子を生じてナシに飛散感染する。さらに晩春から初夏にかけてサビ孢子が降雨の際にビャクシン類に感染する。
- ② ビャクシン類における冬孢子堆の発芽には、気温と降雨が関係し、3月中旬～4月上旬の気温と冬孢子堆の発芽期とは高い相関がある。
- ③ 3月上旬～4月上旬にかけて冬孢子堆が形成されたビャクシン類を水に浸漬したり、あるいは降雨時にビャクシン類で冬孢子堆の膨潤程度を調査して感染期の予察を行う。
- ④ 中間寄主対策としてナシ園周辺のビャクシン類を出来る限り伐採し、植樹しない。
- ⑤ EBI剤は治療効果があるので、感染後の散布でも効果が高い。

FRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
M03	チオノックフロアブル	チウラム水和剤	普	
M09 7	セルカディスDフロアブル	ジチアノン・フルキサピロキサド水和剤	普	
3	アンビルフロアブル	ヘキサコナゾール水和剤	普	
3	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	普	
3	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	普	
3 7	アクサーフロアブル	ジフェノコナゾール・フルキサピロキサド水和剤	普	
7	カナメフロアブル	インピルフルキサム水和剤	普	
7	ネクスターフロアブル	イソピラザム水和剤	普	
7	バシタック水和剤75	メプロニル水和剤	普	
7	フルーツセイバー	ペンチオピラド水和剤	普	
7	パレード15フロアブル	ピラジフルミド水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一系統薬剤を連続使用すると耐性菌を生じさせるおそれがあるので連続使用は避ける。

(2) 黒斑病 *Alternaria kikuchiana*

(生態と防除のねらい)

- ① 葉、枝、花弁、果実に発病し、葉では若葉に、果実では落花後の幼果から収穫期の成熟果まで発病する。
- ② 腐敗芽の除去及び塗布剤による枝病斑の封じ込めを徹底し、伝染源密度を低下させる。
- ③ 病原菌は、空気伝染を行い、特に降雨時に感染が多い。袋掛け後の果実での感染は、雨により果梗を伝わって起こる。
- ④ 開花期前後が高温多湿であれば、果実の初期発病が早く、落花期～梅雨期に高温多雨の場合も発病が多い。
- ⑤ 摘果時に雌しべ残渣を除去し、感染を防止する。
- ⑥ 果実を対象にした薬剤防除の重点時期は落花後～梅雨期で、特に袋掛け期までの防除を徹底することが重要である。
- ⑦ ボケ芽などの越冬伝染源の密度を低下させるため収穫後の秋季にも薬剤防除を行う。
- ⑧ 窒素肥料が遅効きにならないよう肥培管理を行う。

FRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
M01	キノンドーフロアブル	有機銅水和剤	普	
M03	アントラコール顆粒水和剤	プロピネブ水和剤	普	
M04 M01	オキシラン水和剤	キャプタン・有機銅水和剤	普	
M04 M07	ダイパワー水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩・キャプタン水和剤	普	
M07	ベルコートフロアブル	イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	普	
M07 M03	ベルクガード水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩・チウラム水和剤	普	
M09	デランフロアブル	ジチアノン水和剤	劇	
M09 7	セルカディスDフロアブル	ジチアノン・フルキサピロキサド水和剤	普	
1	トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	普	
2	ロブラール水和剤	イプロジオン水和剤	普	
2 M01	ロブドー水和剤	イプロジオン・有機銅水和剤	普	
3 7	アクサーフロアブル	ジフェノコナゾール・フルキサピロキサド水和剤	普	
7	カナメフロアブル	インピルフルキサム水和剤	普	
11 7	ナリアWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	普	
19	ポリオキシシナL水和剤	ポリオキシシン水和剤	普	
M07 19	ポリベリン水和剤	イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシシン水和剤	普	
M04 P07	アリエッテイC水和剤	キャプタン・ホセチル水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一系統薬剤を連続使用すると耐性菌を生じさせるおそれがあるので連続使用は避ける。

(3) 黒星病 *Venturia nashicola*

(生態と防除のねらい)

- ① 病原菌は、芽鱗片の組織内や罹病葉で越冬する。越冬した芽鱗片上の分生胞子や、また罹病落葉に形成された子のう胞子は重要な伝染源となる。
- ② 3月下旬～6月及び9月に低温で雨が多いと発病が多くなる。4～5月の初期防除に重点をおく。梅雨期、秋季（9～10月）の防除も重要である。
- ③ 新梢の伸長期間が長いと芽鱗片の感染期間が長くなるので遅伸びを抑える。
- ④ 発病には、品種間差がある。弱い品種には晩三吉、幸水、豊水、新高、新興などがある。特に無袋の幸水、豊水では収穫前の発病が年によって問題となる。
- ⑤ 罹病苗を持ち込まない。
- ⑥ 秋梢が出ないような肥培管理を行う。
- ⑦ 密植園は、間伐を行い、園内の排水通風採光を図る。
- ⑧ 芽基部病斑を出来るだけ除去し、伝染源密度を低下させる。

FRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
M01	I Cボルドー48Q	銅水和剤	普	
M01	キノンドーフロアブル	有機銅水和剤	普	
M02	石灰硫黄合剤	石灰硫黄合剤	普	
M03	アントラコール顆粒水和剤	プロピネブ水和剤	普	
M03	ベンコゼブ（ジマンダイセン）水和剤	マンゼブ水和剤	普	
M03	チオノックフロアブル	チウラム水和剤	普	
M04	オーソサイド水和剤80	キャプタン水和剤	普	
M04 M01	オキシラン水和剤	キャプタン・有機銅水和剤	普	
M04 M07	ダイパワー水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩・キャプタン水和剤	普	
M07	ベルコートフロアブル	イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	普	
M07 M03	ベルクガード水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩・チウラム水和剤	普	
M09	デランフロアブル	ジチアノン水和剤	劇	
M09 7	セルカディスDフロアブル	ジチアノン・フルキサピロキサド水和剤	普	
1	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	普	
1	ベンレート水和剤	ベノミル水和剤	普	
3	アンビルフロアブル	ヘキサコナゾール水和剤	普	
3	インダーフロアブル	フェンブコナゾール水和剤	普	
3	オンリーワンフロアブル	テブコナゾール水和剤	普	
3	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	普	
3	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	普	
3 7	アクサーフロアブル	ジフェノコナゾール・フルキサピロキサド水和剤	普	
7	カナメフロアブル	インピルフルキサム水和剤	普	
7	ネクスターフロアブル	イソピラザム水和剤	普	
7	フルーツセイバー	ペンチオピラド水和剤	普	
7	パレード15フロアブル	ピラジフルミド水和剤	普	
7 M04	フルーツガードWDG	キャプタン・ペンチオピラド水和剤	普	
9	ユニックス顆粒水和剤47	シプロジニル水和剤	普	
11 7	ナリアWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	普	
11	アミスター10フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	普	
11	スクレアフロアブル	マンデストロビン水和剤	普	
11	ストロビードライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	普	
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ水和剤	普	
52	ミギワ20フロアブル	イブフルフェノキン水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一系統薬剤を連続使用すると耐性菌を生じさせるおそれがあるので連続使用は避ける。

(4) 輪紋病 *Botryosphaeria berengeriana* f. sp. *pyricola*

(生態と防除のねらい)

- ① 幸水、菊水、新興、新水、豊水などの品種で発生が多く、特に無袋の幸水、豊水に被害が多い。
- ② 病原菌は、柄胞子と子のう胞子で伝染し、主に枝のいぼ内に形成された柄子殻内や子のう殻内で越冬する。
- ③ 柄胞子の溢出期間は、2月下旬から10月下旬の間であるが、発生量が多いのは5月下旬から8月上旬である。したがって、防除もこの時期に重点的に行う。
- ④ 果実への感染は5月から7月に多く、枝への感染は5月下旬から7月下旬に皮目から感染する。また、時期に関係なく傷感染も起こる。
- ⑤ 主要な伝染源である枝のいぼを削り取り、薬剤を塗布することが重要である。
- ⑥ 冬期に罹病枝を剪除、また罹患部を削り取ったり、塗布剤によるいぼ病斑の封じ込めをする。
- ⑦ 袋掛けを早めに行う。

FRACコード		商品名	農薬名 一般名	毒性	備考
M04		オーソサイド水和剤 80	キャプタン水和剤	普	
M04 M01		オキシラン水和剤	キャプタン・有機銅水和剤	普	
M04 M07		ダイパワー水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩・キャプタン水和剤	普	
M07		ベルコートフロアブル	イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	普	
M07 M03		ベルクガード水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩・チウラム水和剤	普	
1		トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	普	
1		トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	普	
1		ベンレート水和剤	ペノミル水和剤	普	
7		パレード15フロアブル	ピラジフルミド水和剤	普	
7 M04		フルーツガードWDG	キャプタン・ベンチオピラド水和剤	普	
11		アミスター10フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	普	
11		ストロビードライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	普	
11 7		ナリアWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一系統薬剤を連続使用すると耐性菌を生じさせるおそれがあるので連続使用は避ける。

(5) うどんこ病 *Phyllactinia mali*

(生態と防除のねらい)

- ① 発育枝、主枝、垂主枝などに付着した子のう殻が越冬伝染源となる。
- ② 子のう殻は、4月末頃から裂開して子のう胞子を飛散し5月中旬頃から発病する。
- ③ 高温乾燥の年には発病が多く、特に夏から秋にかけて蔓延するので、7月以降の予防散布に重点を置く。
- ④ 多発後の防除は、難しいので発病初期に防除を徹底する。

FRACコード		商品名	農薬名 一般名	毒性	備考
1		トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	普	
1		ベンレート水和剤	ペノミル水和剤	普	
3 7		アクサーフロアブル	ジフェノコナゾール・フルキサピロキサド水和剤	普	
19		ポリオキシシンAL水和剤	ポリオキシシン水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一系統薬剤を連続使用すると耐性菌を生じるおそれがあるので連続使用は避ける。

(6) 胴枯病 *Phomopsis fukushii*

(生態と防除のねらい)

- ① 被害枝で越冬し、春から夏にかけて柄胞子を分散し感染する。主要な侵入部位は、傷口や切り口であるが、皮目からの感染も起こる。凍害や日焼けによる枝幹障害部位から感染し、被害が拡大する場合もある。品種では、幸水、豊水での発生が多く、樹勢の弱い樹が多い。
- ② 病斑は、見つけ次第に削り取り、薬剤を塗布する。
- ③ 剪定時などの枝の切り口には、薬剤を塗布する。

FRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
M01	バッチレート	有機銅塗布剤	普	
1	トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	普	

(7) 炭疽病 (葉炭疽) *Colletotrichum fioriniae*, *C. gloeosporioides*

(生態と防除のねらい)

- ① 葉のみに発病し、品種を問わず発生するが、豊水、新高で発生しやすく、特に豊水で早期落葉を引き起こす。
- ② 伝染源は、ナシの枝幹に付着して越冬した病原菌であり、春に分生子が降雨により分散して感染拡大する。また、罹病落葉も伝染源となる。
- ③ 主要感染時期は5月から梅雨時期であり、この時期の予防散布が重要となる。

FRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
M03	チオノックフロアブル	チウラム水和剤	普	
M04 7	フルーツガードWDG	キャプタン・ベンチオピラド水和剤	劇	
M04 M07	ダイパワー水和剤	イミノクタジンアルベシル酸塩・キャプタン水和剤	普	
M09	デランフロアブル	ジチアノン水和剤	劇	
11	アミスター10フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	普	
11	ストロビドドライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	普	
M09 7	セルカディスDフロアブル	ジチアノン・フルキサピロキサド水和剤	普	
11 7	ナリアWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一系統薬剤を連続使用すると耐性菌を生じるおそれがあるので連続使用は避ける。

(8) 白紋羽病 *Rosellinia necatrix*

(生態と防除のねらい)

- ① ナシ以外にも広く樹木に被害を与える多犯性の病害である。ナシを新植する場合は、園地の前歴を把握し、必要であれば植え付け前に土壤消毒を行う。
- ② 病原菌は、主幹地際部から根部に寄生し、被害根の表面や皮下には白色～灰色の羽毛状の菌糸束が見られる。
- ③ 感染初期には、地上部に症状は現れず、地下部で菌糸の寄生のみ進行し、新梢伸長不良、葉の小型化、果実肥大不良、早期落葉など地上部に症状が現れた時は、既に地下部での被害は甚大となっている。
- ④ 地上部にわずかでも症状を認めたら、直ちに根部を掘り下げる。罹病部位は、除去せずに、そのまま風乾させ、休眠期(3月)に水田土や山土などで埋め戻し、薬剤による灌注処理を実施する。
- ⑤ 軽症樹は、2～3年結果制限を行い、剪定や肥培管理にも配慮し、樹勢回復強化に努める。重症樹で樹勢の回復が見込めないものは伐採し、改植する。その際、必ず予防として薬剤灌注処理を実施
- ⑥ 結果過多、一挙更新、強剪定、断根など樹勢衰弱につながる行為は、白紋羽病を誘発するので行わない。

FRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
6	フジワン粒剤	イソプロチオラン粒剤	普	
29	フロンサイドSC	フルアジナム水和剤	普	

(9) シンクイムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① 前年発生が少なくても、再発しやすい害虫であるので常に最小限の防除は必要である。
- ② 8月中旬～9月中旬にかけて収穫される品種の防除適期は、第2、3世代発生期にあたる5月中下旬～7月上中旬であり、この間に2～3回散布する。
- ③ モモ園と隣接するナシ園では、発生が多い傾向がある。
- ④ ナシヒメシンクイのフェロモントラップを利用して成虫の発生消長を把握したり、モモの新梢の心折れ状況からふ化食入期を知り防除時期の決定に利用する。
- ⑤ 有袋栽培をすると無袋栽培よりも被害が少なくなる。

IRACコード	商品名	農薬名		毒性	備考
		一般名			
1B	サイアノックス水和剤	C Y A P水和剤		普	
1B	スミチオン水和剤40	M E P水和剤		普	
1B	ダイアジノン水和剤34	ダイアジノン水和剤		劇	
3A 1B	パーマチオン水和剤	フェンバレレート・M E P水和剤		劇	
3A	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤		劇	
3A	マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤		劇	
3A	ロディー水和剤	フェンプロパトリン水和剤		劇	
4A	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤		普	
4A	スタークル/アルパリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤		普	
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤		普	
4A	バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド水和剤		劇	
5	ディアナWDG	スピネトラム水和剤		普	
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤		普	
28	サムコルフロアブル10	クロラントラニリプロール水和剤		普	
28	テッパン液剤	シクラニリプロール液剤		普	
28	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤		普	
28	ヨーバルフロアブル	テトラニリプロール水和剤		普	
	ナシヒメコン	オリフルア剤		普	交信攪乱剤, 登録は果樹類 ナシヒメコン
	シンクイコン-L	ピーチフルア剤		普	交信攪乱剤, 登録は果樹類 モモシクイ

(10) ハダニ類

(生態と防除のねらい)

- ① ナシを加害するハダニ類は、数種いるが優占種はミカンハダニとカンザワハダニで、その他クワオオハダニ、オウトウハダニ、ナミハダニである。
- ② ミカンハダニは、ナシ樹上で越冬せず、初夏に近くの常緑樹から移動して増殖する。
- ③ クワオオハダニ（旧称：休眠性ミカンハダニ）は、ナシ樹上において卵態で越冬し、翌年4月上旬頃より発生する。
- ④ カンザワハダニは、ナシ樹上において成虫態で越冬する。
- ⑤ ナシのハダニは、種類によって発生生態や薬剤に対する感受性が異なるので、発生しているハダニの種類を明らかにして防除することが大切である。
- ⑥ 最も発生の多い時期は、7月上中旬である。
- ⑦ 一般に8月頃までに多発すると被害が大きいが、天敵類の発生が多い場合は、被害が少ない。
- ⑧ ハダニ類の天敵として、ハダニアザミウマ、ケシハネカクシ類、捕食性タマバエ、捕食性ダニ、キアシクロヒメテントウなど有力なものがある。主に葉裏に寄生するオウトウハダニやカンザワハダニを攻撃し、有効に働くことが多く、天敵類の活動が旺盛な場合は、薬剤防除を必要としないことがある。
- ⑨ 粗皮下などに越冬ダニの密度が高い場合は、春季の移動前までに潜伏場所を取り除く。
バンド誘殺は、9月に主枝、亜主枝に幅20cmのクラフト紙または肥料袋等を取り付け、冬季に園外に持ち出し焼却する。

IRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
	ハーベストオイル	マシン油乳剤(97%)	普	
6	コロマイト乳剤	ミルベメクチン乳剤	普	
6	コロマイト水和剤	ミルベメクチン水和剤	普	
10B	バロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	普	
20B	カネマイトフロアブル	アセキノシル水和剤	普	
20D	マイトコーネフロアブル	ビフェナゼート水和剤	普	
23	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	普	
25B	ダニコングフロアブル	ピフルブミド水和剤	普	
33	ダニオーテフロアブル	アシノナビル水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

※ 同一薬剤の使用は年1回とする。また、同一系統の薬剤も年1回が望ましい。

(11) ナシホソガ

(生態と防除のねらい)

- ① 成虫の発生時期は地域によってかなり変動するが、ほぼ6月下旬～7月上旬と8月下旬～9月上旬の年間2回発生する。ただし、実用上第1世代発生期の防除に重点を置く。防除は50%羽化時期をねらって適期に行う。防除適期を失った場合は各薬剤ともに効果がない。
- ② 無袋栽培では第1世代幼虫が直接果実の表皮に食入し著しく外観を損なうので十分な注意が必要である。
- ③ 枝の表皮に食入すると樹勢が衰えるだけでなく、ハダニ、コナカイガラムシ、ハマキムシなど諸害虫の潜伏場所となり、また輪紋病菌、胴枯病菌の侵入口となるなど間接的な被害が多い。被害部を休眠期にブラシで削り取り、越冬幼虫の密度を低下させる。

IRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
3A 1B	パーマチオン水和剤	フェンバレレート・MEP水和剤	劇	

(12) カイガラムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① マツモトコナカイガラムシは多くのナシ園に定着しており、時には多発生することがある。越冬密度から次年の発生を予測し防除の要否を決める。
- ② クワコナカイガラムシはクワコナカイガラヤドリバチの活動が盛んなため最近ほとんど発生を認められていない。
- ③ 有袋果に好んで寄生するため被害が多いが、無袋果にはほとんど発生しない。
- ④ 越冬密度が高く発芽後に出現した越冬幼虫の寄生率が高い場合は 開花後に薬剤防除する（5月以降の薬剤防除効果は期待できない。）。
- ⑤ 薬剤処理袋を利用して果実の被害防止を図る。
- ⑥ 天敵として寄生性コバチ類、捕食性タマバエ、テントウムシ類などが知られているのでこれらの活動を助け利用を図る。
- ⑦ 冬期のマシン油乳剤による防除も重要である。
- ⑧ 越冬密度を低くするため、粗皮やその他の越冬場所を取り除き、樹体を清潔にする。
- ⑨ バンド誘殺については、ハダニの項参照。

IRACコード*	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
	マシン油乳剤 9 5	マシン油乳剤	普	落葉果樹（なし、りんご、かき、もも）登録
	トモノール	マシン油乳剤 (95%)	普	落葉果樹（なし、りんご、かき、もも）登録
	スプレーオイル	マシン油乳剤 (97%)	普	
1A	ミクロデナボン水和剤 8 5	N A C水和剤	劇	登録はクワカガラムシ
1B	スミチオン水和剤 4 0	M E P水和剤	普	登録はクワカガラムシ
1B	ダイアジノン水和剤 3 4	ダイアジノン水和剤	劇	登録はクワカガラムシ若齢幼虫
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	登録はクワカガラムシ類
4C	トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル水和剤	普	
9B	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	普	
16	アブロードフロアブル	ブプロフェジン水和剤	普	登録はカガラムシ類幼虫
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	普	

(13) アブラムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① ナシノアブラムシは発芽後～落花後、ナシノミドリオオアブラムシとワタアブラムシは6月頃の発生状況に注意する。
- ② ワタアブラムシには、各種薬剤の感受性が低下したものがあるので注意する。

IRACコード*	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
1A	オリオン水和剤 4 0	アラニカルブ水和剤	劇	
1A	ミクロデナボン水和剤 8 5	N A C水和剤	劇	
1B	エルサン水和剤 4 0	P A P水和剤	劇	
1B	サイアノックス水和剤	C Y A P水和剤	普	
1B	スミチオン水和剤 4 0	M E P水和剤	普	
3A	アグロスリン水和剤	シベルメトリン水和剤	劇	
3A 1B	パーマチオン水和剤	フェンバレレート・M E P水和剤	劇	
4A	アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	劇	
4A	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	普	
4A	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	普	
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	
4A	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	普	
4C	トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル水和剤	普	
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	普	
29	ウララ D F	フロニカミド水和剤	普	

(14) カメムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① 年により発生量及び発生時期は著しく変動が大きく、極めて発生予測が難しい害虫であるため、防除に当たっては十分な発生予測を行って防除要否、防除時期を決定する。
- ② 発生を予測するには、指標植物上での寄生状況を調査し、あわせて100W高圧水銀灯やブラックライト（FL20BL）やフェロモントラップによって誘殺状況を調査する。
- ③ 防風林及び周辺樹としてヒノキ、スギが栽植されている場合にはなるべく刈り込んで結実し難いようにする。

IRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
1B	スミチオン水和剤 40	MEP水和剤	普	
3A	アディオフロアブル	ペルメトリン水和剤	普	
3A	アーデントフロアブル	アクリナトリン水和剤	普	
3A	アグロスリン水和剤	シベルメトリン水和剤	劇	
3A	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	劇	
3A	ロディー水和剤	フェンプロパトリン水和剤	劇	
3A 1B	パーマチオン水和剤	フェンバレレート・MEP水和剤	劇	
4A	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	普	
4A	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	普	
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	
4A	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	普	

(15) ハマキムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① 発芽開始時期～新葉展開期にかけて、幼果を食害する。
- ② 幼虫発生期の4～5月の防除に重点を置く。
- ③ 巻葉すると、浸透移行性の弱い薬剤は効果が低い。巻葉前の散布とする。
- ④ 粗皮削りを行い、越冬場所を少なくする。

IRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
1B	スミチオン乳剤	MEP乳剤	普	
1B	スミチオン水和剤 40	MEP水和剤	普	
1B	ダイアジノン水和剤 34	ダイアジノン水和剤	劇	
5	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	普	
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普	
28	サムコルフロアブル 10	クロラントラニリプロール水和剤	普	
28	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	普	
28	ヨーバルフロアブル	テトラニリプロール水和剤	普	

(16) ナシグンバイ

(生態と防除のねらい)

- ① 成虫は5月上旬頃発生する。
- ② ふ化した幼虫は落葉に寄生し、汁液を吸収して加害するので、葉の表面は白く葉緑がぬける。
- ③ 高温、乾燥条件で多発しやすい。梅雨明け以降の発生初期防除に重点を置く。
- ④ 寄生は葉裏に限られるため、葉裏を中心に十分量散布する。

IRACコード	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
1B	スミチオン水和剤 40	MEP水和剤	普	
1B	ダイアジノン水和剤 34	ダイアジノン水和剤	劇	

(17) ナシチビガ

(生態と防除のねらい)

- ① 初齢幼虫は葉肉内を丸く食害潜行する。2齢以後は葉面に出て葉肉を浅く食害する。
- ② 第1～2世代成虫発生期の5月上旬～7月下旬の防除に重点を置く。
- ③ 葉裏の葉脈の近くに、黄白色の細長い俵状のまゆをつくるのでこれをすりつぶす。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
1A	ミクロデナボン水和剤 85	NAC水和剤	劇	
1B	スミチオン水和剤 40	MEP水和剤	普	
3A	マブリック水和剤 20	フルバリネート水和剤	劇	

(18) ニセナシサビダニ

(生態と防除のねらい)

- ① 成虫は5月中旬になると徒長枝上位葉に集中して寄生し、加害を始める。
- ② 高温乾燥年には発生しやすい。
- ③ 防除適期は5月下旬である。
- ④ 成虫はナシの芽基部や枝の表皮の隙間あるいは粗皮下などで越冬するので、冬期に粗皮削りを行う。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	劇	
20B	カネマイトフロアブル	アセキノシル水和剤	普	
21A	サンマイト水和剤	ピリダベン水和剤	劇	
21A	ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメート水和剤	普	
21A 39	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	劇	
21A	ピラニカ水和剤	テブフェンピラド水和剤	劇	
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	普	
UN	クムラス	水和硫黄剤	普	